

大江橋

ハ語傳テ笑ヒケル間、隅田、高橋面目ヲ失ヒ、且クハ出仕ヲ返メ、虛病シテゾ居タリケル、

〔遊囊賸記<sup>九</sup>〕渡邊橋ハ大江岸ニカ、レリトイフ、行基以來世々ニ修造アリシガ、文明ノコロハ已

ニ橋柱バカリトナリ、今ハソノアトモ見ヘズ、

〔夫木和歌抄<sup>二十一</sup>〕おほえのはし、大江、山城或攝津

〔和爾雅<sup>地理</sup>〕攝津國東成郡 大江橋

〔攝陽群談<sup>七</sup>〕大江橋 同成<sup>西</sup>郡ニ屬ス、方角所指不詳、夫木集、攝津、山城兩國ニ比ス、今謂大江橋ハ、

俗名所ニ比シテ玉江橋ノ東ニアリ、一説、川邊郡上坂部村ニアリト云ヘドモ證未考、

〔攝津名所圖會<sup>四上</sup>〕大江橋 一名渡邊橋、近江川の下流、今の天満橋架す、此時河幅或

五尺、二ニ天神橋長サ百廿二間三尺、三ニ難波橋長サ百十四間六尺、是を浪花三大橋といふ、

今の堂島の大江橋、渡邊橋ハ後世堂島を築く時、真享年中にかくる也、舊名によつて號く、

〔夫木和歌抄<sup>二十一</sup>〕大江のはしのかたかける所を

はるかなる大江のはしはつくりけん人の心ぞ見えわたりける

〔夫木和歌抄<sup>二十一</sup>〕文治六年五社百首<sup>おほえ</sup>はし

あはれなりながらはあともくちにしを大江のはしのたえせざるらん

〔和漢名數<sup>地理</sup>〕大坂大橋三

天満橋

〔攝陽群談<sup>七</sup>〕天満橋 同川筋<sup>和</sup>淀大川筋ノ落合ニアリ、南ハ京橋二丁目、北ハ天満二丁目ニ涉

リ、京海道ノ脇道也、此橋高欄疑寶珠アツテ涉リ廣シ、從是西ニ曲リ長柄村へ出ル道アリ、

〔攝津志<sup>四成郡</sup>〕關梁 天満橋<sup>在府城西北長七十餘</sup>丈、跨東生郡於大河、

〔十三朝紀聞<sup>光格</sup>〕文化六年七月、大坂大水、略<sup>中</sup>天満橋傾、

〔十三朝紀聞<sup>仁孝</sup>〕天保八年二月十九日、大坂町奉行屬吏大鹽平八郎格助父子、帥同僚<sup>略</sup>七八人